

	コード	名 称	区分	コード	名 称			
事業名	231	ユニバーサルデザイン事業	会計	01	一般会計			
			款	03	民生費			
			項	01	社会福祉費			
基本 施策	40	ユニバーサルデザインの理念を普及させる	目	01	社会福祉総務費			
			細目	183	社会福祉一般事務経費			
行革大綱の重点事項番号			5	細々目	52	ユニバーサルデザイン事業		
担当部課	コード	130200		担当者 氏 名	中出光美	連絡先	22 - 9657 (内線) 2621	
	名 称	健康福祉部 障がい福祉課						

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	一般市民及び市職員		※対象件数
成果(どうする)	ユニバーサルデザインの理念の普及啓発が図れる。 公共施設の使いやすさなどの情報を広く市民に周知できる。 市民参加のしくみづくりが構築できる。		
根拠法令・要綱等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例・伊賀市ユニバーサルデザイン庁内推進委員会設置要綱 ほか		
開始年度	平成 18 年度	年度	関連事業
終了年度	平成 年度	年度	
H21 事業 内容	平成18年度から20年度にかけて公共施設ユニバーサルデザイン調査事業を実施。 平成21年度は、「ユニバーサルデザイン庁内推進委員会」を設置し、 ①公共施設の現状と身近な問題を学び、ユニバーサル理念を身につける。 ②市民の立場に立って考える観点と姿勢を持って、業務に取り込むことを身につける。 ③公共施設調査をNPOや市民と実施することで、協働のあり方を身につける。 の3つの項目を目標に、計7回推進委員会を開催し、ユニバーサルデザインについての学習や施設調査、市民との意見交換を行った。		
社会情勢 の変化等	特になし		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	目標		
調査施設数		箇所	6	4	4	4
			実績	実績		
庁内推進委員会開催数		回	4	4	7	7
			実績	実績		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	目標		
施設調査参加者数			人	30	5	25	25
				実績	実績		
報告会・庁内推進委員会参加者数			延人数	40	175	175	175
				実績	実績		

投入 コスト			H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
	直接事業費計 (A)		(千円) 861	(千円) 295	(千円) 300	(千円) 400
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他	0	0	0	0
	一般財源		861	295	300	400
	事業投入人件費 (B)		0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600
	フルコスト(A)+(B)		4,461	3,895	3,900	4,000

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		総合計画においては、新設施設についてはすべてユニバーサルデザインの観点に基づいた施設づくりが求められており、市として取り組む必要がある。なお、今後、伊賀市全体としてユニバーサルデザインの理念の普及・実際の業務への反映に取り組んで行くには福祉部門のみではなく、建設部門等も含めた幅広い分野を調整できる部署で推進を進めていくことが望ましい。
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		関係部署の担当者が集まる庁内推進委員会を開催することにより、ユニバーサルデザインの理念が各部署に普及できる。
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
達成度	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
効率性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	関係部署の担当者が集まる庁内推進委員会を開催することにより、ユニバーサルデザインの理念が各部署に普及できる。
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	当初設定した計画を	100%	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	
達成度	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		NPO法人と協働して事業を進めることにより、より専門的な理念の普及が図れる。
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
達成度	全体コストにおける負担構成は適正である。		
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	行政職員の意識向上のため、庁内推進委員会を設置していく。 理念の普及や使いやすい施設づくりのためのしくみづくりを行う。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 平成21年度より「ユニバーサルデザイン庁内推進委員会」を設置。昨年度は7回の委員会を開催し、行政職員にユニバーサルデザインの理念の普及やNPO法人との協働のよる施設調査を通じ使いやすい施設づくりのためのしくみづくりに向けての協議を行った。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	増田 政美
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 平成21年度よりユニバーサルデザイン庁内推進委員会を設置し、専門的な講師による講習や市民との意見交換、施設調査を行い関係職員の意識の向上を図った。また、平成22年4月には全職員を対象としたユニバーサルデザイン講演会を行い理念の普及を図っているため、今後、全職員が実際の業務を行ううえでユニバーサルデザインをどのように生かしていくかの仕組みをつくる必要がある。また、市庁舎建設においても担当課と連携し、ユニバーサルデザインの理念を生かした庁舎となるよう協議検討していく。
現時点における 課題、その他	伊賀市全体としてユニバーサルデザインの理念の普及・実際の業務への反映に取り組んで行くには福祉部門のみではなく、建設部門等も含めた幅広い分野を調整できる部署で推進を進めていくことが望ましい。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成23年度までに伊賀市としてのユニバーサルデザインを推進するためのしくみをつくる。